

入管収容所にいる人々の支援を続ける エリザベスさんに 人道配慮による「在留特別許可」を！



茨城県牛久市に住むエリザベスさんは、ナイジェリア出身で難民申請中の仮放免者です。日本に来て32年になりますがいまだに在留許可を得られません。彼女のような仮放免者は労働が許可されず、健康保険にも入れず、許可なしには県外に移動できません。そのような不自由不安定な身分でありながら、エリザベスさんは入管に収容されている他の外国人や他の仮放免者を訪問し、力づけるのを日々の仕事としています。書類書きを手伝い、物品を差し入れ、病院や弁護士事務所に付き添い、通訳し、時には家族の代わりに治療同意書にサインするなど、多岐に及ぶ支援活動に日常のほとんどの時間を捧げてきています。

彼女自身も深刻な持病を患い支援を必要としているにもかかわらず、人を助けることにもてる力を全てつぎ込んで暮らしています。

私たち with Elizabeth (エリサベスとともに) は、今年2月に Change.org で『エリザベスさんに在留特別許可を！』というネット署名運動を始め、6月には署名用紙とあわせて38,000筆を超える署名を、法務大臣、法務省入管庁長官に提出しました。署名は現在も継続中です。

この6月、改定入管法が熟議されないまま国会を通過してしまいました。施行されると2回目の難民申請中のエリザベスさんに強制送還の可能性が高まります。現在ビアフラ先住民のナイジェリアからの独立運動に携わるエリザベスさんを待っているのは、即逮捕と処刑です。

日本は極端に難民を認めない国です。滅多に在留特別許可を与えないことも国際的に批判されています。

日本にはいま、帰国したくてもできない重い事情を抱えて苦しんでいる外国の人々があります。日本で働き、子を育て、安全に生活したいと望んでも、仮放免の身分で明日の生活の保証すら得られない人たちがたくさんいるのです。その子どもたちは親が仮放免であるために、在留資格を与えられず将来の夢、希望を持つことができないでいます。

私たちは今の入管法を、もっと人道的な、国際水準の法律に変えたいと思います。そして難民・移民を受け入れる優しい社会をつくっていきたいとねがっています。

私たちと一緒に声をあげませんか。

変えよう！ 入管・難民法
つくろう！ 移民受け入れ社会を

X : @konosekaini2

FACEBOOK : www.facebook.com/wekonosekaini



署名サイトはこちら
<https://change.org/withElizabeth>



ホームページ
<https://konosekaini.com>